



令和4年（2022年）年頭のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、夢と希望に満ち溢れた令和4年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より、市政の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、第3～第5波と猛威を振るった新型コロナウイルス感染症により、本市を含め観光産業を中心とする八重山の経済は大きな打撃を受けました。しかし、新型コロナワクチン接種の推進や緊急事態宣言等の施策に対する市民の皆様のご理解ご協力により、昨年末以降の感染者数は落ち着いた状況が続いています。今後は、来る第6波を見据え、引き続き感染予防や新しい生活様式を実践しつつ、経済活動の段階的な拡大に取り組んで行かなければなりません。引き続き市民の皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、八重山高等学校ソフトテニス部女子の県大会連覇や同校郷土芸能部、市立大浜中学校郷土芸能部の全国大会出場など文武にわたる子ども達の活躍が多数あったほか、昨夏開催されました東京オリンピック競技大会に、新城幸也選手（自転車ロード）や平良海馬選手（野球）が出場するなど本市出身のアスリートが躍動した1年でした。特に、埼玉西武ライオンズ所属の平良海馬投手は、プロ野球オールスターゲームのファン投票において全投手中最多得票を集めて初選出され、「開幕からの連続試合無失点記録」及び「ワンシーズンの連続試合無失点記録」のプロ野球新記録を樹立するなど大きな飛躍を遂げ、東京2020オリンピックでは石垣市出身者として初の金メダリストとなるなど、郡民はもとより全国各地の郷友に夢と希望を与える歴史的な快挙を達成しました。今後も更なる活躍が期待されます。

市政に目を向けますと、市民待望の市役所新庁舎が無事竣工し、11月15日に開庁いたしました。伝統的でありながらも独創的で、市民が誇りを持てる庁舎として、琉球石灰岩の石垣や赤瓦屋根、島材のリュウキュウマツをふんだんに用いた温かい内装など「皆が集う石垣市のランドマーク」に相応しく、万が一の災害時には、市民の安全・安心の確保を図る地域防災拠点施設としての機能も有しています。新庁舎の完成を契機に職員が一丸となり、より効率的な市政運営を図るとともに、市民の皆様にも末永く親しまれる庁舎となるよう、より一層きめ細やかな市民サービスに努めてまいります。

また、市役所庁舎移転後の跡地利用につきましても、地域のにぎわいの創出に資するよう、市民と来訪者が交流する拠点を目指し、公民連携による整備を進めてまいります。市民待望のゴルフ場付リゾート施設の建設につきましても、地域未来投資促進法に基づき県に提出していた土地利用調整計画の同意が得られたことにより施設整備に向け大きく前進しました。引き続き、早期着工に向け必要な事務手続きを迅速に進めてまいります。

そのほか、これまで最重要課題として位置づけてまいりました「待機児童ゼロ」を実現することができました。北・西部地域振興として川平地域における子育て支援施設の整備も完了し、今後は子育て支援の更なる充実を図る観点から児童館の整備、学童保育の充実、ひとり親家庭の支援、子どもの貧困対策など安心して子育てができるまちづくりを進めてまいります。

本年も、医療・福祉・教育の充実はもとより、離島が抱える課題解消に向け、先導的な事業の実施・展開を図り、活気と魅力に満ちた「日本一幸せあふれるまち『石垣市』」を目指し取り組んでまいります。

引き続き、市民皆様をはじめ関係団体の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、市民各位の益々のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、新年寿ぎのごあいさつといたします。

令和4年 元旦 石垣市長 中山 義隆